世界が進むチカラになる。

MUFG

経済調査

グラフで見る関西経済（2026年11月）

2026年11月11日
調査部　主任研究員
塚田裕昭

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

今月の景気判断～持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きがみられる
- 8月の生産は前月比－2.6%と2ヵ月連続でマイナスとなり、足踏み状態
- 9月の実質輸出は3ヵ月ぶりに前月比でマイナスとなったが、均してみると持ち直しの動きがみられる
- 9月の小売販売額は、名目では前年比＋1.0%と増加したが、実質では同－1.2%と2ヵ月連続でマイナスとなった
- 8月の賃金（大阪）は、名目でプラスが続いている。実質でも9ヵ月連続でプラスとなった

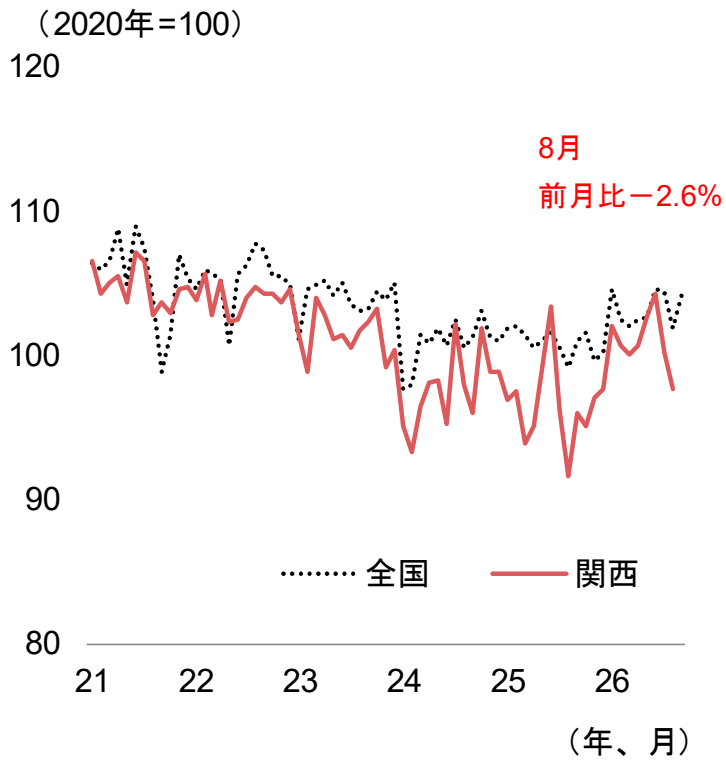
項目	現状
景気全般	**持ち直しの動きがみられる**
生産	足踏み状態となっている（↓）
輸出	持ち直しの動きがみられる
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	改善している
個人消費	持ち直している
住宅投資	足踏み状態となっている（↓）
公共投資	例年を上回る水準となっている

注：（）内は前月からの変化の方向
生産は「持ち直しの動きがみられる」から下方修正（↓）
住宅投資は「持ち直しの動きがみられる」から下方修正（↓）

生産

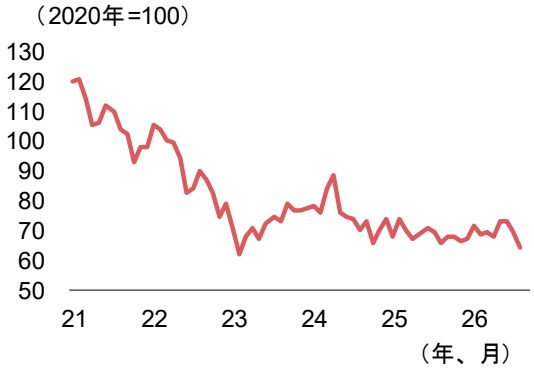
8月の鉱工業生産(関西)は前月比－2.6%と2ヵ月連続でマイナスとなり、足踏み状態となっている。主要業種の動きをみると、化学が増加したが、電子部品・デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械が減少した。先行きは、持ち直しを見込むが、米・イランの対立長期化、中国経済の減速などから、下振れるリスクがある。

鉱工業生産指数

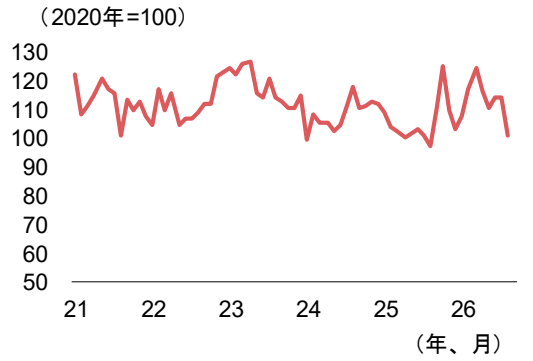


(出所)経済産業省「鉱工業指数」

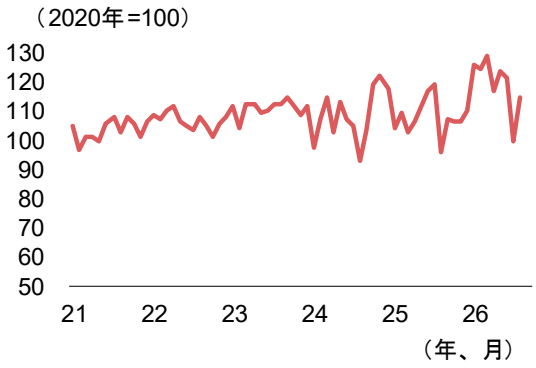
電子部品・デバイス



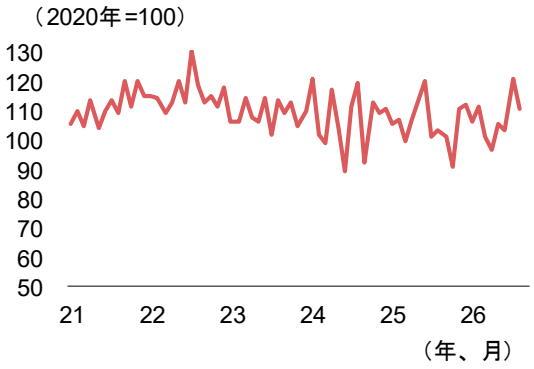
電気機械



化学



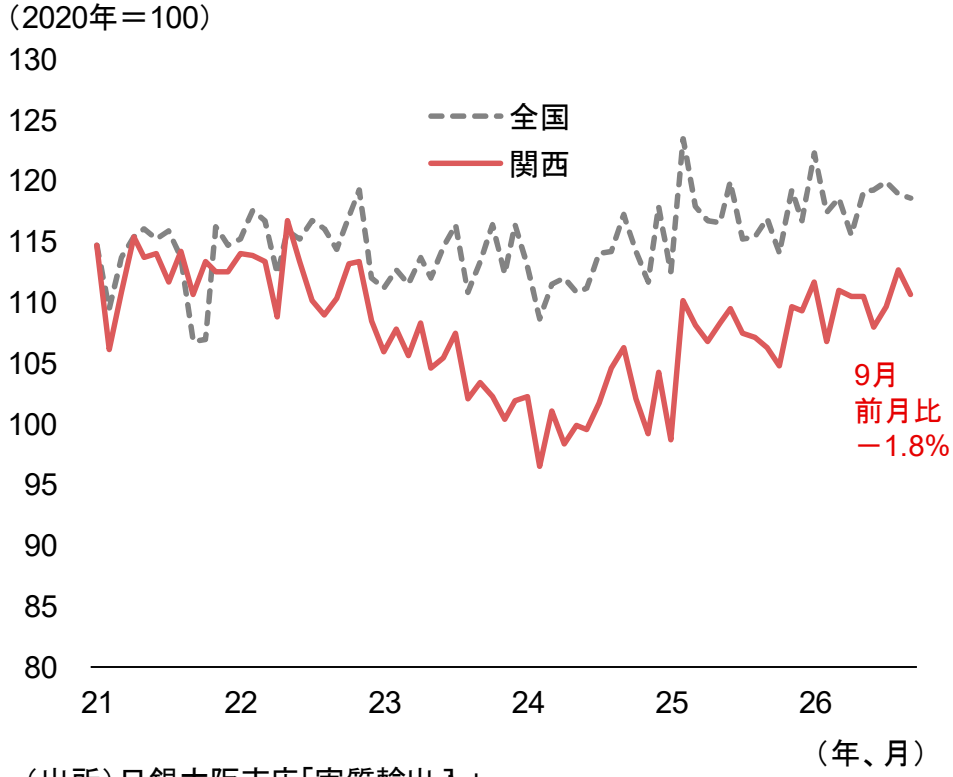
汎用・生産用・業務用機械



輸出

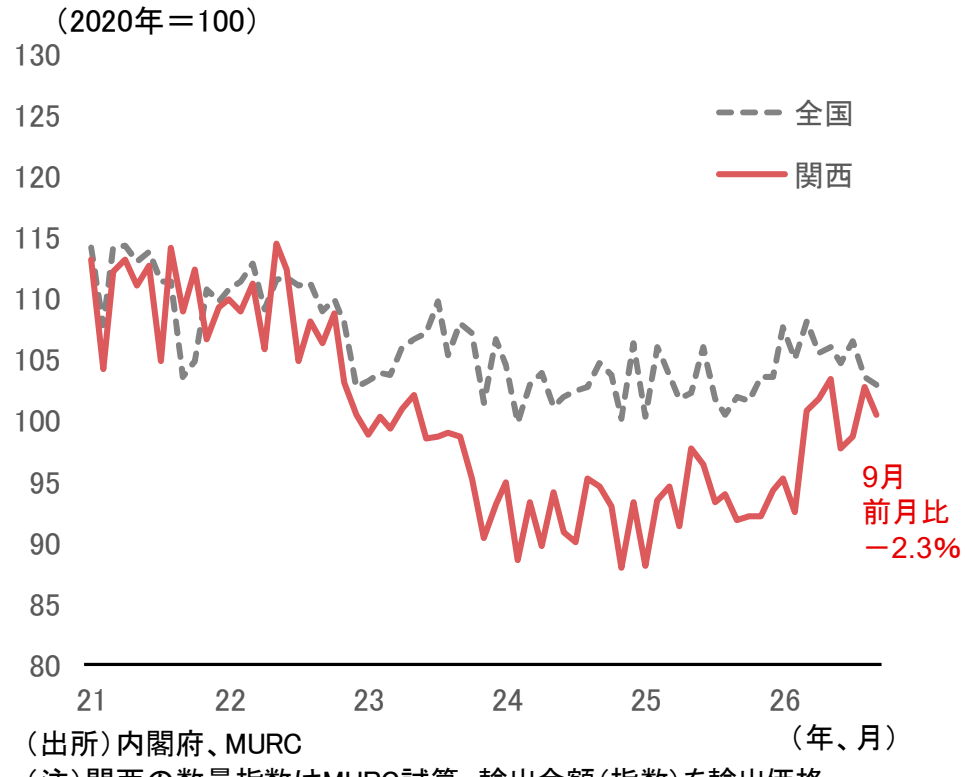
9月の実質輸出（季節調整値）は、前月比－1.8%の110.8と3ヵ月ぶりに低下したが、均してみると持ち直しの動きがみられる。当社試算の9月の輸出数量（季節調整値）は3ヵ月ぶりに低下した。先行きについては持ち直しを見込むが、イラン情勢の展開や中国経済の減速により、下振れるリスクもある。

実質輸出指数（季節調整値）



（出所）日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数（季節調整値）

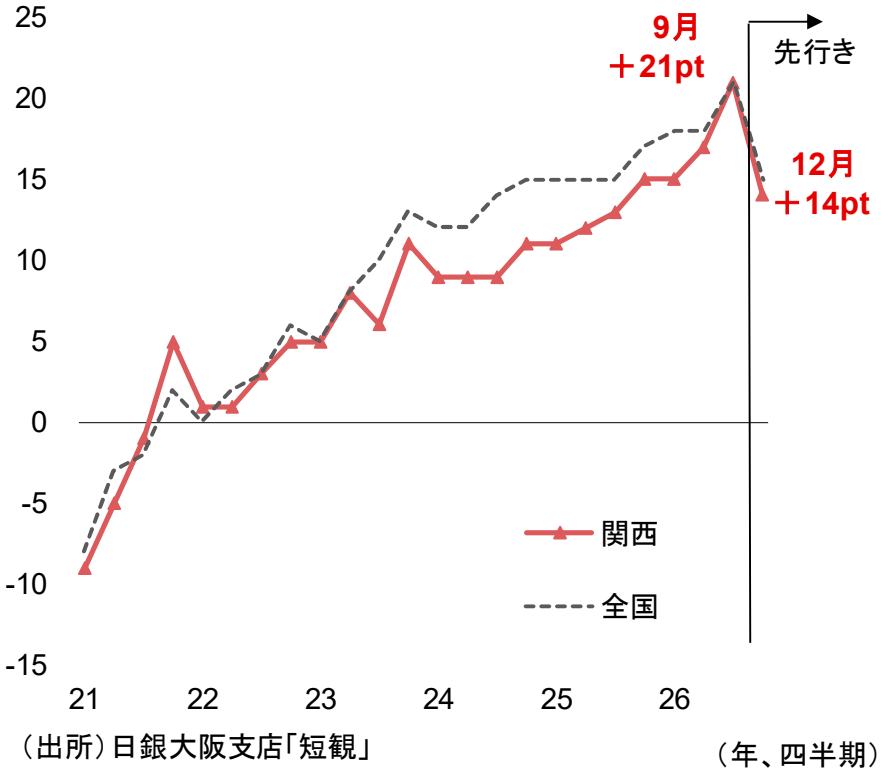


（出所）内閣府、MURC
（注）関西の数量指数はMURC試算。輸出金額（指数）を輸出価格指数（全国）で除したもの。

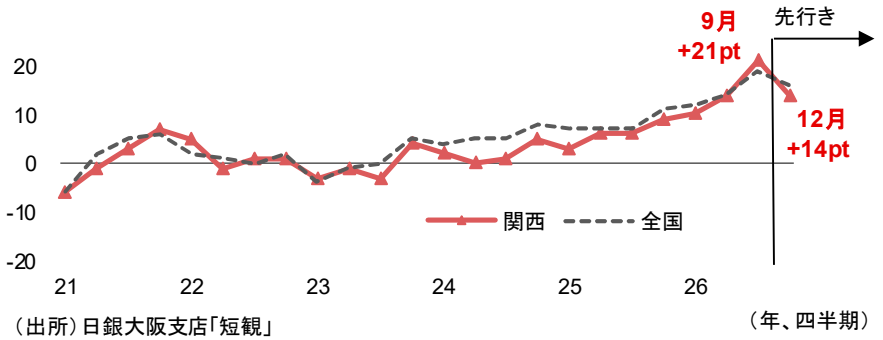
企業景況感（日銀短観）

日銀短観9月調査の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、全産業で＋21ptと6月調査（＋17pt）から改善。製造業、非製造業ともに改善した。業種別に見ると、製造業では化学、非鉄金属、はん用・生産用・業務用機械などが、非製造業は建設、物品賃貸、対個人サービスなどが改善している。先行き（12月）については、製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている。

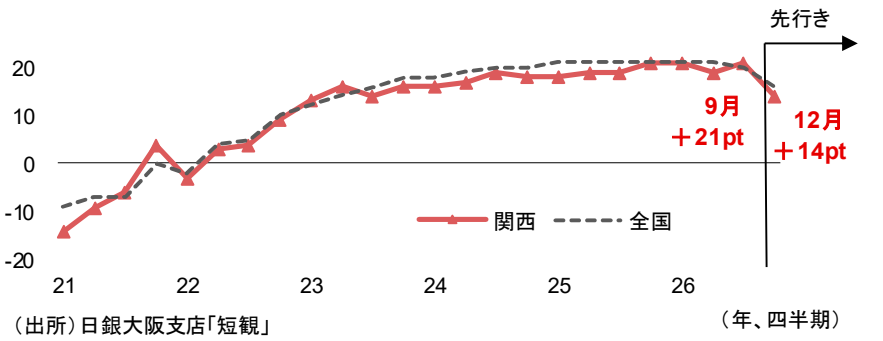
短観 業況判断DI「全産業」



同　製造業



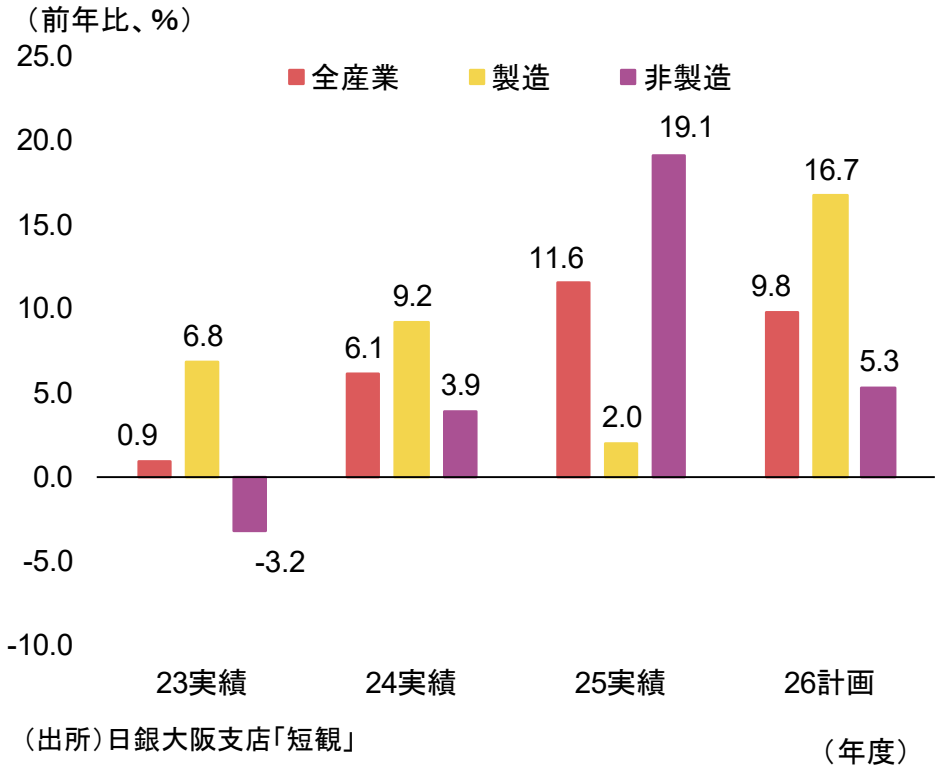
同　非製造業



設備投資（日銀短観）

日銀短観9月調査によると、26年度の設備投資は全産業で前年比＋9.8%と前回6月調査と同水準が見込まれている。業種別では、化学、輸送用機械、電気機械、建設、小売、対事業所サービスなどが前年比大幅増の計画となっている。

設備投資 実績・計画



（出所）日銀大阪支店「短観」

（注）設備投資は、含む土地投資額

設備投資額（前年比%）

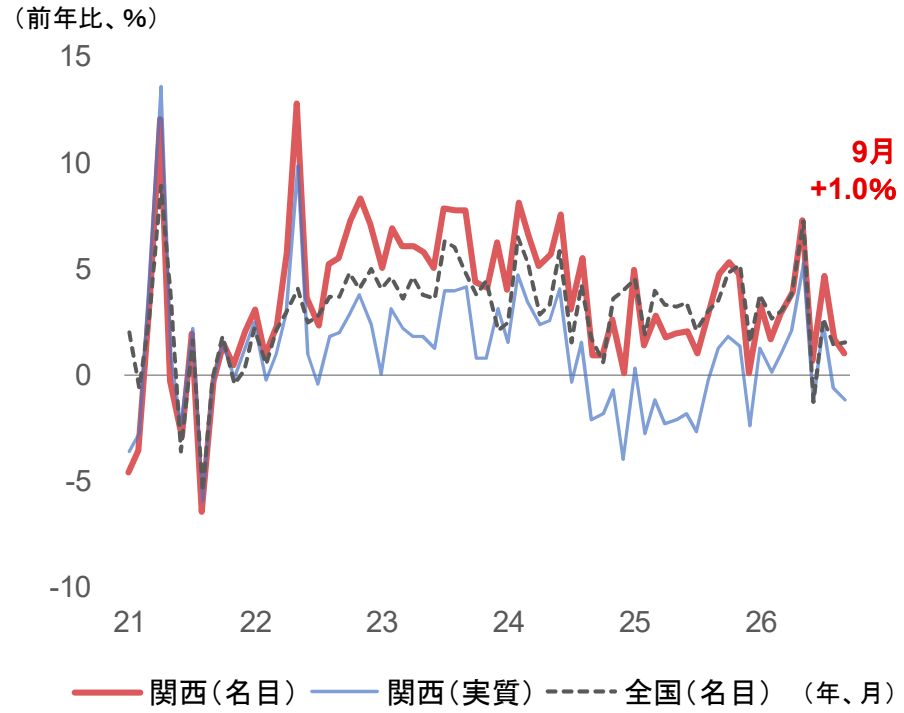
	25年度実績	26年度計画		
		今回調査	（前回調査との差異）	前回調査
全産業	11.6	9.8	（ 0.0 ）	**9.8**
製造業	2.0	16.7	（ 1.4 ）	**15.3**
非製造業	19.1	5.3	（ -0.9 ）	**6.2**

個人消費（小売売上、自動車販売）

9月の小売販売額（名目）は、前年比＋1.0%の増加となった。実質値は前年比－1.2%と2ヵ月連続でマイナスとなった。

9月の新車販売は、前年比＋2.8%と2ヵ月ぶりに増加。普通車、小型車、軽自動車いずれも増加した。

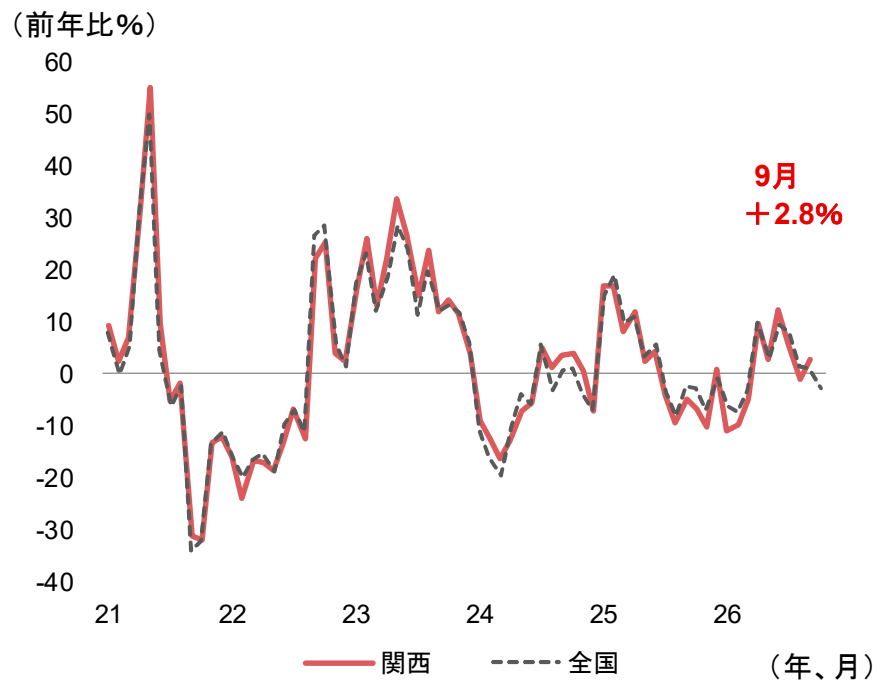
小売販売額（6業態計）



（出所）経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

（注）百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合（関西）」で実質化

新車販売台数（含む軽）

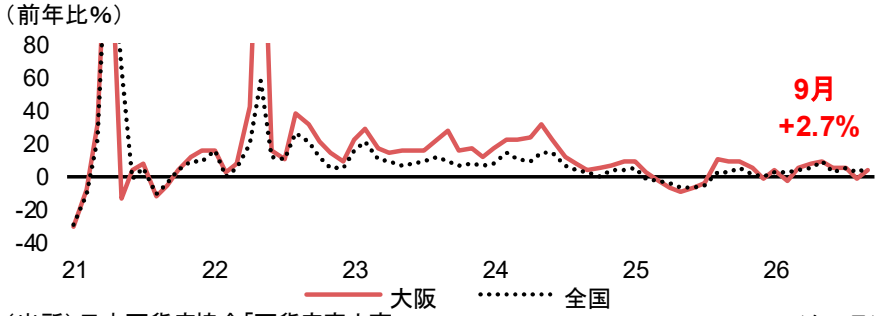


（出所）日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費（業態別）

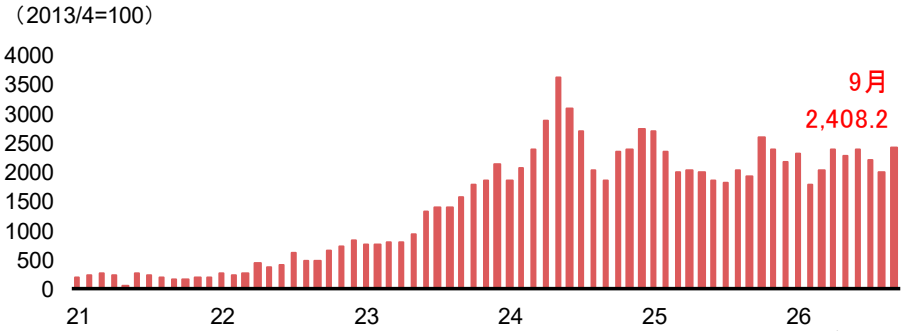
9月の百貨店売上（大阪）は、前年比＋2.7%と2ヵ月ぶりにプラスとなった。高額品の好調に加え、シルバーウイークで来客数が伸びたことが増加に寄与したとみられる。京阪神百貨店免税売上指数は前年比＋26.7%の2,408.2と2ヵ月ぶりにプラスとなった。

百貨店売上高



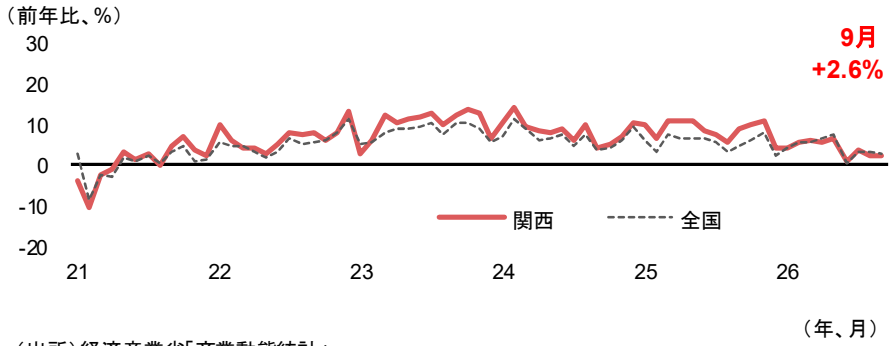
（出所）日本百貨店協会「百貨店売上高」

京阪神百貨店免税売上高



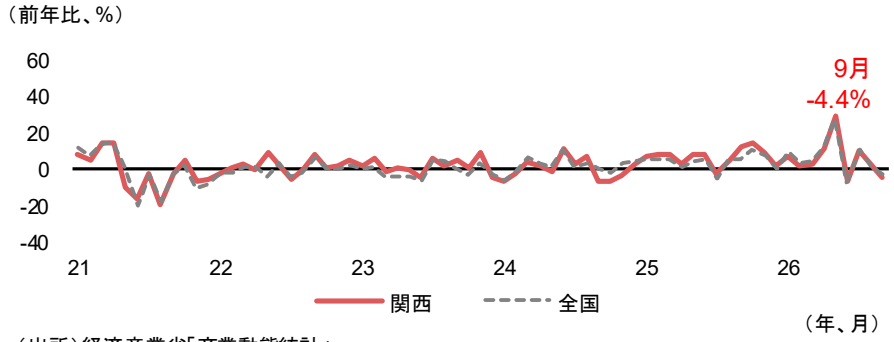
（出所）日銀大阪支店「百貨店免税売上（関西）」

ドラッグストア販売額



（出所）経済産業省「商業動態統計」

家電大型販売店販売額



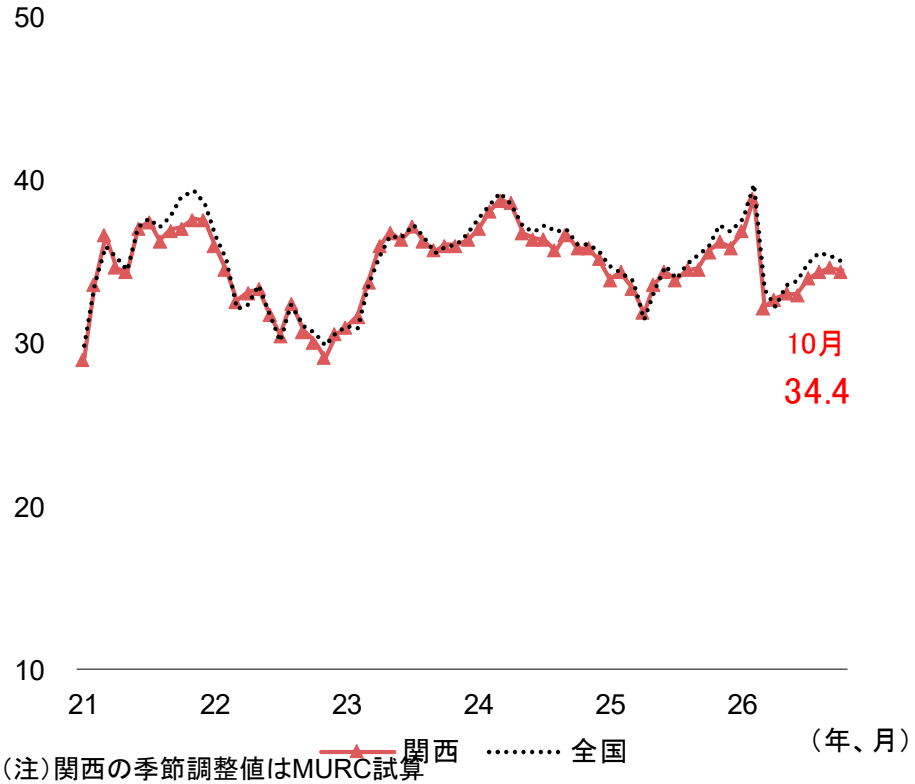
（出所）経済産業省「商業動態統計」

マインド・景況感

10月の消費者態度指数（季節調整値）は34.4と4ヵ月ぶりに低下した。

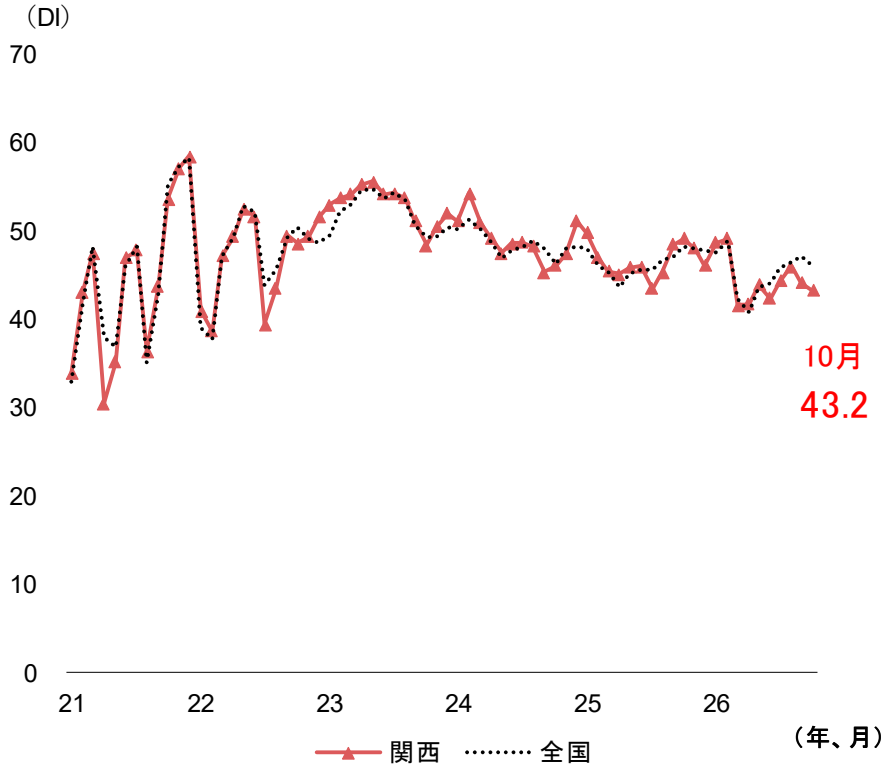
10月の景気ウォッチャー調査（現状判断DI、季節調整値）は前月差0.9pt低下の43.2となり、横ばいを示す50を22ヵ月連続で下回った。食品・日用品の値上げや天候不順で、消費者の節約・買い控えが強まり、来客数や販売量が伸び悩んだ。

消費者態度指数



（注）関西の季節調整値はMURC試算
（出所）内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査（現状判断）



（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

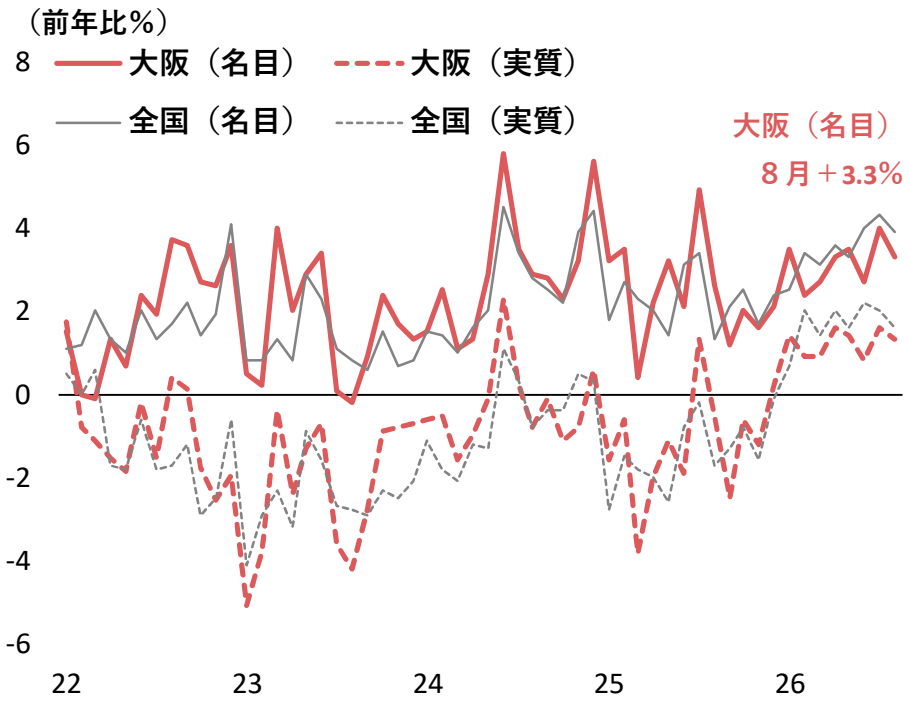
賃金・雇用

8月の大阪の賃金指数は、名目で前年比＋3.3%と前年比プラスが続いている。実質でも同＋1.3%と9ヵ月連続でプラスとなった。

9月の関西の有効求人倍率は1.08倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

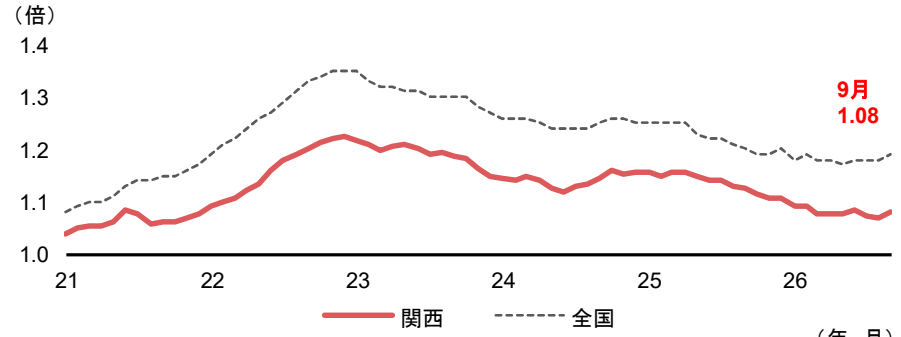
26年7-9月期の失業率は2.9%と前期と同水準、就業者数は1,087万人と前期から減少した。

名目賃金指数



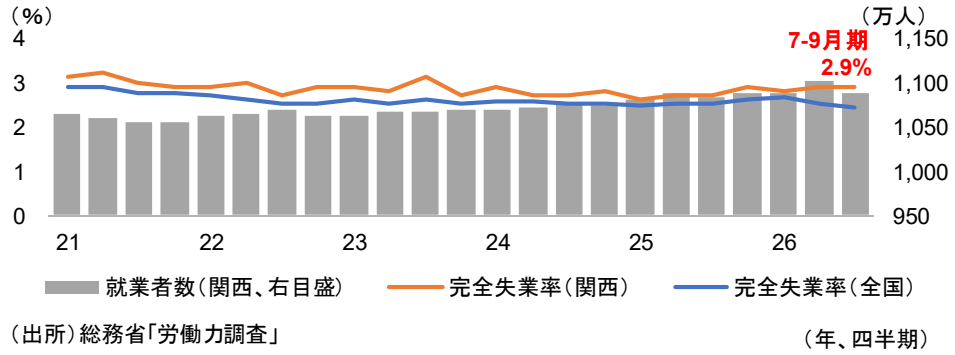
（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

有効求人倍率（季節調整値）



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数（季節調整値）



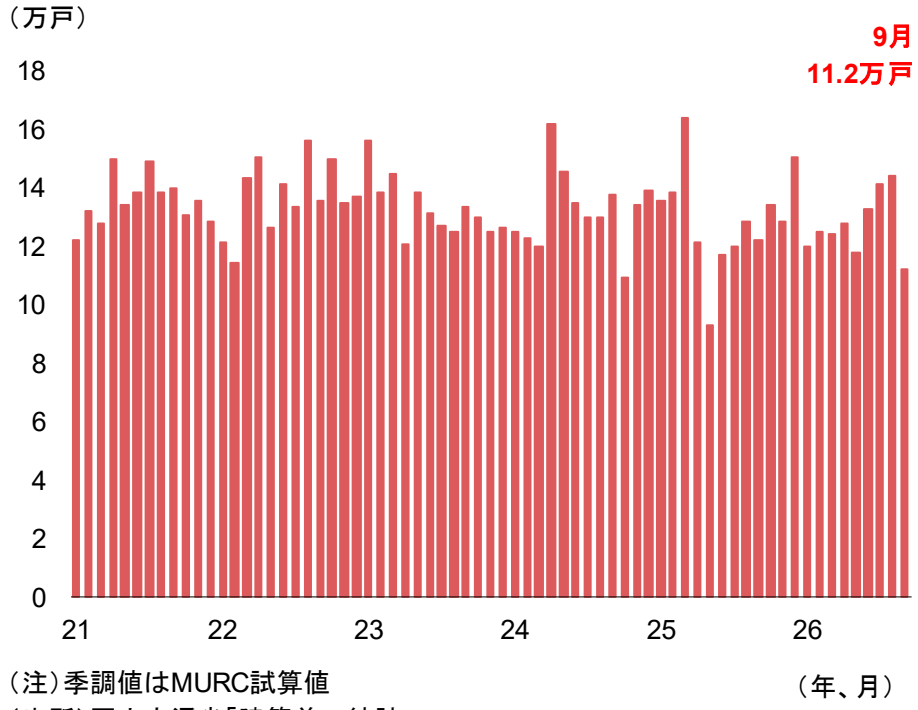
（出所）総務省「労働力調査」

（年、四半期）

住宅投資

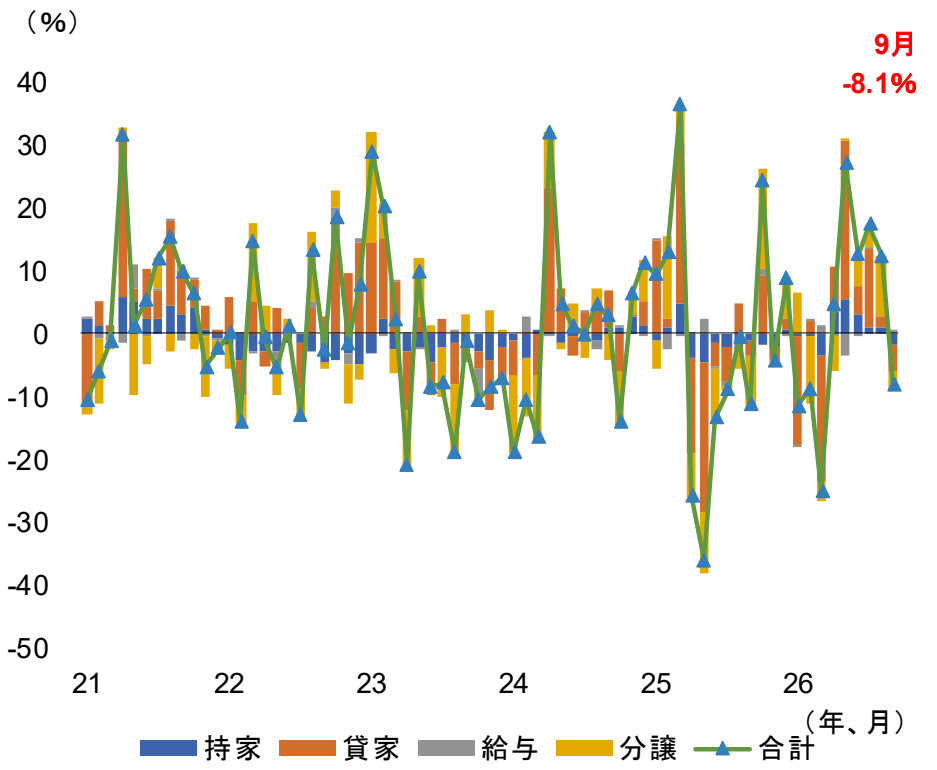
9月の住宅着工は、季調・年率11.2万戸と4ヵ月ぶりに減少し、足踏み状態となっている。前年比では－8.1%と6ヵ月ぶりに減少した。持家、貸家、分譲が減少した。先行きは、所得環境の改善が下支え要因となる一方、住宅価格の上昇や人手不足などの下押し要因もあって、横ばい圏での推移が見込まれる。

新設住宅着工戸数（季調済年率換算）



（注）季調値はMURC試算値
（出所）国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数（前年比）

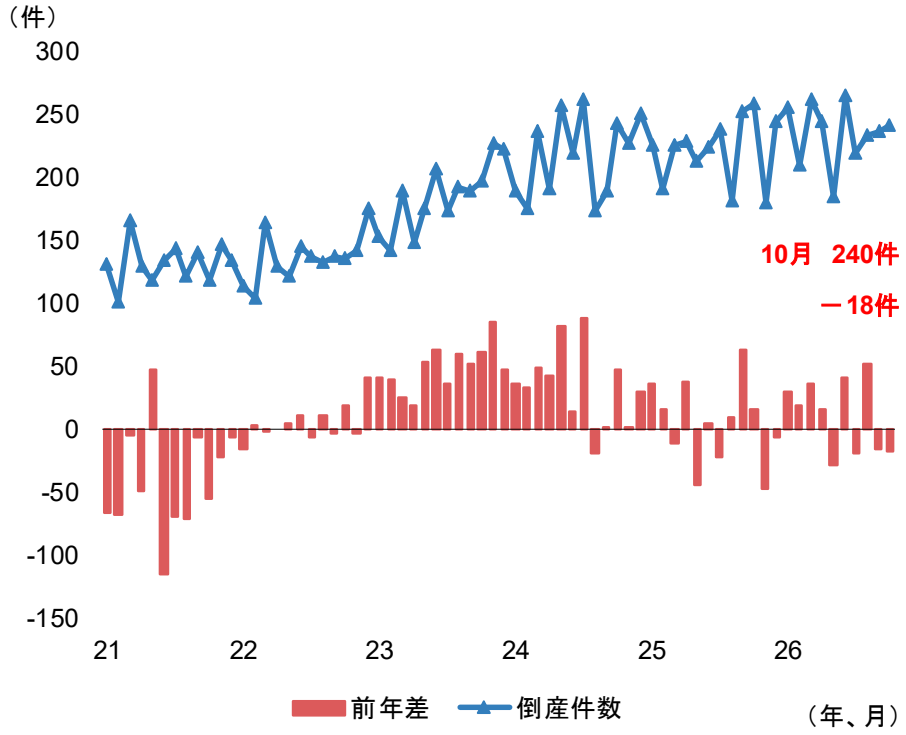


（出所）国土交通省「建築着工統計」

倒産

10月の倒産件数は240件と前年から18件減少。均してみると、おおむね横ばい圏で推移している。

倒産件数

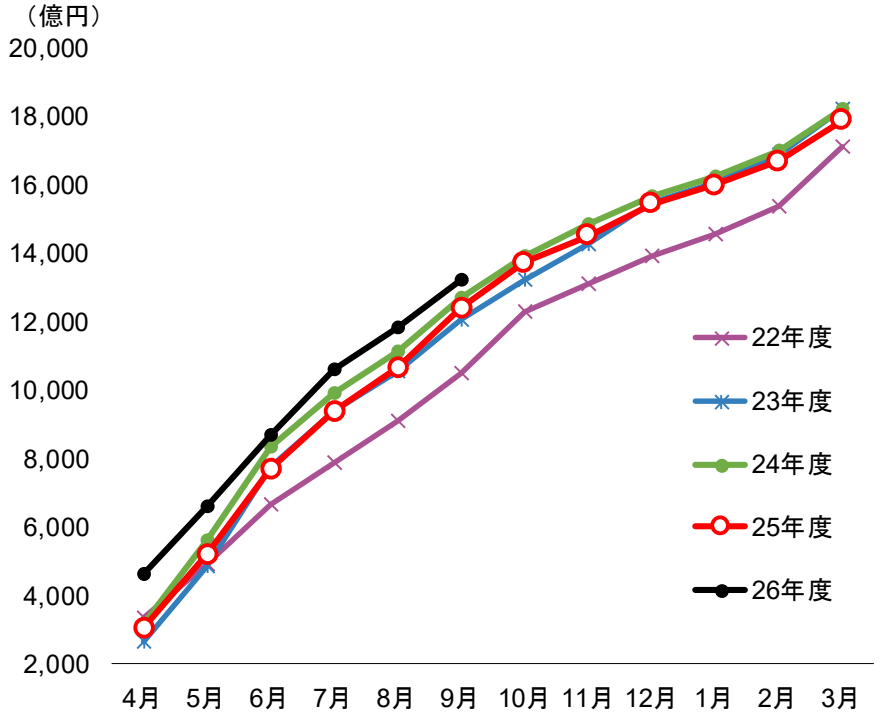


（出所）東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

9月の公共工事請負金額（年度累計）は、前年比＋11.0%の1兆3,228億円。例年より高めの水準となっている。

公共工事請負金額（年度累計）



（出所）東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

（お問い合わせ）

調査・開発本部　調査部　塚田

TEL：03-6733-1626　E-mail：chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー